

第13回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 平成29年1月24日（火） 18:30～19:45
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 長澤委員（座長）、後藤委員（副座長）、本間委員、乾委員、田上委員、中山委員、深川委員、大泉委員

（北村係長）

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

定刻となりましたので、これより「第13回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会」を開催いたします。

はじめに、懇談会開催にあたり網走市副市長の川田よりご挨拶申し上げる予定でしたが、所用のため、本日出席ができませんでしたので、早速議事に移らせていただきます。

それでは、ここからの議事進行は長澤座長にお願いいたします。

（長澤座長）

それでは、次第に基づき進めさせていただきます。

まずは、次第の2番、新規委員の紹介について事務局から説明して下さい。

（北村係長）

異動等により新たに委員になられた方をご紹介します。

網走厚生病院の藤永（ふじなが）委員の後任として、内田（うちだ）委員。女満別中央病院の服部（はっとり）委員の後任として、高山（たかやま）委員。網走市社会福祉協議会の本間（ほんま）委員の後任として、後藤（ごとう）委員。

なお、後藤委員につきましては、前任者から引き続き、副座長の任も合わせて事務局よりお願いしております。

以上でございます。

（長澤座長）

事務局職員にも異動があったんですね。

（北村係長）

事務局職員にも異動がありました。網走市企画調整課企画係の北村です。

同じく企画係の湯浅主事です。

以上、2名です。よろしくお願いたします。

(長澤座長)

それでは次に、議事の1つ目、「定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨」について事務局より説明をお願いします。

(北村係長)

それでは、初めての方もいらっしゃると思いますので、はじめに「定住自立圏構想」、「共生ビジョン」及び「懇談会の趣旨」について説明させていただきます。「ビジョン改定案」の1ページをご覧ください。

定住自立圏構想とは、総務省が推進している施策であります。

人口減少、少子高齢化が進展する中、地方の生活基盤が衰退し、将来的に単独の市町村だけでは、フルセットの行政サービスを提供できなくなることが懸念されることから、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉え、「定住」に必要な生活機能である医療、福祉、教育、公共交通などを圏域全体で確保するとともに、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを醸成し、魅力あふれる圏域を形成していくことを目的とするものです。

メリットといたしましては、国が推進する各種事業の採択にあたって、事業にもよりますが、優先的に採択されるなどの優遇措置があり、各分野での事業実施に係るハードルが下がることなどがあげられます。

ここまで、定住自立圏構想の概要について、説明させていただきました。引き続き、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨を説明させていただきます。

網走市と大空町は、平成23年3月に「定住自立圏形成協定」を締結し、平成23年9月に「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」を、平成28年4月に「第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。

この定住自立圏共生ビジョンについてですが、これは、総務省の定住自立圏構想推進要綱の中で定められており、協定により形成された圏域全体に係る、将来像や、おおむね5年間にわたる各市町村の具体的取組を記載する事業計画の位置付けとなります。

また国の推進要綱には、この共生ビジョン策定にあたっては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経たうえで、当該市町にて協議をすることとされており、毎年度、所要の変更を行うものとされております。

そのため、今年度につきましても、ビジョンの改定に向け作業を進めてまいりたいと考えております。

「定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨」につきましても、以上でございます。

(長澤座長)

ただいま、事務局より「定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨」について、説明がありました。

基本的な部分の確認ですが、質問などはございますでしょうか？

(乾委員)

この定住自立圏共生ビジョンを策定し5年が経過したとのことですが、具体的に何らかの成果はあったのでしょうか。補助金のハードルを下げられるとの話は、実際この何年かこの会議に出席してきて、聞いたことはありますが、具体的にハードルを下げる事ができた事業はあるのでしょうか。

(北村係長)

事業にもよりますが、今のところこの共生ビジョンに掲げている具体的な取組において、国の補助メニューは活用していない状況です。今後取組の中で、活用できる補助メニューを検討していかなければならないと考えております。

(乾委員)

この定住自立圏を誰も知らない。やってみて何か意味があるのかという疑問はあります。

(林参事)

PR不足というのはおっしゃる通りだと思います。

(長澤座長)

成果は何かしらあるので、そのあたり整理してもらったら良いかと思えます。それでは、続きまして、それでは次に、議事の2つ目、国の「定住自立圏構想推進要綱」の改定について事務局より説明をお願いします。

(北村係長)

昨年9月末に、総務省より、「定住自立圏構想推進要綱」の一部改正の通知があり、「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」につきましても、それに伴い、今年度中に改定が必要な箇所がございます。

改正点は大きく分けて2点あり、1つ目は、将来推計人口を記載し、それを踏まえた将来人口等の目標を含めること。2つ目は成果指標を設定し、進捗管理を行うこととなっております。

そのため、網走市と大空町におきまして、昨年10月より成果指標の設定について協議し、案を作成いたしました。詳細につきましては、この後、説明させてい

たきます。以上です。

(長澤座長)

ただいま、事務局より国の「定住自立圏構想推進要綱」の改定について、説明がありました。質問などはございますでしょうか？

ないようであれば、次に進みたいと思います。次は議事の3つ目、「網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定案」についてですが、事務局より説明をお願いします。

(北村係長)

今回の改定は、本日の懇談会と次回、2月に予定しております懇談会での検討を踏まえた上で行いたいと考えていますが、そのたたき台として、修正案を赤字で記載しております。

それでは、各章ごとに説明させていただきます。

1ページをご覧ください。

第1章につきましては、共生ビジョン策定の経緯などが記載されておまして、今回は、下の枠組みの経過にビジョンを一部変更する旨の記載を追加しております。また、先ほどご説明いたしました、将来の人口推計と目標を3ページに追加で記載しています。

次に4ページをご覧ください。第2章では、圏域の概況と現状が記載されております。今年度は調査データが更新されないことから、数値の変更はありませんが、9ページにあります事業所数などの3つの表において、平成10年と平成25年の比較のパーセンテージに誤りがありましたので、6箇所訂正しております。

次に20ページをご覧ください。

第3章はこれまでの取組状況と今後の方向性ですが、こちらは修正ございません。

続きまして、27ページをご覧ください。第4章では、協定に基づいて推進する具体的取組が記載されています。それぞれの取組の協定事項ごとに、今回成果指標KPIを追加しています。

ここで大変申し訳ありませんが、1ヶ所訂正がございます。⑱の新製品の開発・支援、販路拡大促進事業の成果指標ですが、この数字は網走市のみとなっているため、16,000名を19,400名に訂正願います。また、38ページにつきましても同様に19,400名に訂正願います。

また、45ページからの第5章は、第4章で掲載しております具体的取組と関連した個別の事業一覧となっております。こちらの修正はございません。

以上、簡単ではございますが網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定案を説明させていただきました。

(長澤座長)

「網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの改定案」につきまして、ただいま事務局から説明があったところですが、懇談会委員の皆様は、各分野のお立場から地域の活性化にご尽力いただいております、この定住自立圏は、将来を見据えたもので、是非この機会に多くのご意見をいただければと考えております。

そうしたご意見を、網走市・大空町それぞれで持ち帰り、担当部署にて、検討の上、事業として共生ビジョンに加えていくことができるのではないかと考えておりますので、委員の皆さんからのご意見やご質問などあれば、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(田上委員)

ページの人口推計につきまして、網走市のHPではもっと少ないはずですが、これは平成25年のデータなので、既に差が出ているということでしょうか。それとも増えると予測しているのでしょうか。

(北村係長)

こちらの数値は社人研、社会保障・人口問題研究所の数値を使用しております。平成27年に網走市も大空町もそれぞれ総合戦略を策定し、その中で人口ビジョンを打ち出していまして、人口ビジョンは社人研の推計値を使っておりますが、これはそのデータからの数値になります。

また、この数値は国勢調査を元にしておりますので、ホームページで公開している人口基本台帳の数値とは異なります。

(林参事)

この数値は国立社会保障・人口問題研究所の数値でして、これから何も対策を講じなければ、このように人口が減少していくという推計で、それに対して歯止めをかけようということで総合戦略を策定し、その効果が現れた場合の目標値が下段に示されています。

(田上委員)

刑務所の受刑者や農大生など、住民票をおいていない方の分が含まれているという理解でよろしいでしょうか。

(北村係長)

そのとおりです。

(長澤座長)

社会教育関係から何かご意見はないでしょうか。

(本間委員)

直接関係ないのかもしれませんが、私が最近気になっているのは、40ページにもありますバス路線のことです。高齢者の事故が多く取り沙汰されていますが、運転免許がなければ暮らしていけませんし、いくらコンパクトシティとはいっても交通網が整備されていなければそもそもが難しいと感じます。コミュニティバスをまわすとかそうしたことを早急に考えていただきたいと思っています。

(乾委員)

私も賛成です。農協でもそうしたバスをまわしてほしいと言ったが、難しいと言われました。免許を取り上げると、家に引きこもりがちになり痴呆の心配もありますし、そうした交通関係の対策を行政で考えてもらえるとありがたいなと思います。

(本間委員)

費用がかかるなら、応分の負担などをしっかりとり、登録制などにする方法もある。早急に手立てしてもらわないと、結局運転をしている人がやめてしまうと、痴呆になったり、健康のためにも良くないと思います。

(北村係長)

市でも別の部署ではありますが、現在、公共交通のあり方を検討しております。その中で、郊外地区の公共交通のあり方についてももちろん検討しておりますが、中々良い案が出ていない現状ではあります。費用対効果ですとか、誰が運営するのかなど、難しい問題があるようです。

(乾委員)

とりあえずやってみるということも重要だと思います。議論だけでなく、早急に対策を講じて欲しいと思います。

(長澤座長)

農家の方は、農地を守るために郊外に住み続けなければならないでしょうし、この地域は日本の中でも有数の食糧基地で、多くの農地を抱えておりますから、そうした対策も必要でしょうね。

(中山委員)

本州ではコミュニティバスに乗って地域をまわるような、そんな光景がよくテレ

ビに出ているが、北海道はあまりないのでしょうか。

(田上委員)

網走もコミュニティバスがあるが、人があまり乗っていないという現状にあります。

(乾委員)

乗っていないと、お金がかかるという話になりますよね。

(本間委員)

そういう発想だと対策がとられないことになるんですよね。

(乾委員)

受益者が負担するような仕組みなり、具体的に考えていかないと、いつまでも進まないと思います。今、つくしヶ丘地区や駒場など高齢者のみの世帯が多いと聞きます。夫婦二人で頑張っている内は良いのかもしれませんが、一人になってしまうと途端に困ってしまう。

(長澤座長)

どんな仕組み作りにしても、実験的にでもまず取り組むということが必要になってくるのかもしれませんが。住民が何に困っているのかというと、まずは生活の問題ということですね。

(深川委員)

スーパーなどの問題も深刻です。東藻琴ではホクレンがAコープをやっているが、それがなくなってしまうとセブンイレブンとセイコーマートの2つのコンビニしかなくなってしまう。その危機感がありまして、年末は商工会の応援もあって、かなり売り上げも伸びたと聞いています。

(中山委員)

女満別のスーパーもここ数年で様変わりしました。Aコープが北雄ラッキーになり、「スーパーばんば」がなくなり、全日食チェーンが直営でやっている。最近できた「ホームックニコット」の中でも食料品を一部扱っている。生活するだけのものはあり、町営住宅も近いので、これからお客さんが「ホームックニコット」の方に流れるかもしれません。

(長澤座長)

こういうリアルな話はとても大事だと思います。これをどう地域づくりに生かすかということが大切で、今後もこうした話をすることを続けていければと思います。

(乾委員)

この定住自立圏の懇談会をやっていることで交付税措置されているのでしょうか。

(林参事)

定住自立圏に取り組む市町村には、特別交付税の措置があります。その額は平成26年度に拡充されまして、中心市が当初4,000万円だったものから8,500万円、近隣市町村が1,000万円から1,500万円となっています。

ただし、補助金や交付金でもらっている訳ではなく、特別交付税は包括的に交付されておりますので、実際は見えにくい状態です。

(中山委員)

なかなかこの事業をPRしづらいというのもそうしたことがあるのかもしれないですね。

(深川委員)

この定住自立圏を上手くやっているのは十勝。バイオマスや水素ガスなどうまく利用して、地域の活性化につながっています。この地域は世界遺産も抱えて空の玄関も持っているのもっと上手にPRできれば。斜里と連携がとれれば良いが、広域的にやっという考え方を共有できないと厳しいと思います。

(乾委員)

深川委員は大空町の町議会議員とのことですが、この場に出た意見を議会で伝えるために、網走市からも市議会議員の方にこの懇談会の委員に入ってもらってはどうか。議員としてではなく、深川委員のように違う立場で参加していただければ。

(中山委員)

人口を増やそうという話ですが、現実問題、雇用したくても人がいない状況で困っています。働く人がいなければ、請負える仕事も少なくなり悪循環に陥ってしまいます。昔はトラック業界にも、農家を離農する方や、色んな方がいて働いてくれていましたが、今の若い人は仕事があっても住んでくれない、遊ぶ場所がないからなのではないでしょうか。

(大泉委員)

今の若い人は外に出ていかないと感じています。昔は仕事が終わった後お酒を飲みに行こうということもありましたが、今はお酒はいいですと断られます。だったら食事に行こうというと食事ならということもあります。まちの飲み屋も少なくなっていました。独身者も多い。

(長澤座長)

それでは、色んな話が出ましたが、答えはすぐに出ませんので、共生ビジョンにつきましては、このとおり改定するというところでよろしいでしょうか。

それでは、異議なしのようですので、このとおり改定することにいたしまして、今後の進め方ということですが、次回の予定は、2月ということでもよろしかったですか。

(北村係長)

今回説明いたしました改定案につきまして、特段ご意見等がございませんでしたので、原案どおり決定させていただくこととし、完成版を後日皆様に送付させていただきたいと思っております。次回の懇談会は次年度に日程を調整し、開催したいと考えております。内容につきましては、今回設定したK P Iの進捗状況や、共生ビジョンの見直し等を予定しております。以上です。

(長澤座長)

それでは、ただいまの説明に関しまして、ご意見やご質問などはございますでしょうか。ないようですので、以上で第13回の網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了いたします。

皆様、長時間にわたりご苦労様でした。